

論文内容要旨

論文題目

地域住民の栄養調査による喫煙と血清脂質の関連性に関する研究

所属部門： 社会環境予防医学 部門

所属講座： 公衆衛生学 講座

氏 名： 矢口 友理

【内容要旨】(1,200字以内)

【背景と目的】喫煙はがんや心筋梗塞のリスクを高めることや、血清脂質異常との関連が指摘されている。喫煙者の食習慣については抗酸化物質や食物繊維摂取量が少なく、脂質やアルコール摂取量が多いことが指摘されていることから、喫煙と血清脂質異常との関係は脂質やアルコール摂取量といった食習慣の交絡の影響を受けている可能性があるが、日本人喫煙者を対象とした血清脂質の研究において食習慣との関連を検討している報告はみられない。本研究では栄養素や食品摂取量を定量的に算出できる質問票を用いて喫煙者の栄養素および食品摂取量を明らかにし、喫煙習慣と血清脂質との関連が食事由来の脂質やアルコールの交絡によるものかどうかを検討した。

【方法】平成17年5月にCOE研究の一環として高島町の40歳以上の全住民を対象として生活習慣アンケート調査を行い、同意を得られた5446名について喫煙状況による食習慣の特徴について共分散分析で解析した。栄養素および食品摂取量はJALSで用いられ、妥当性が検討されている簡易型自記式食事歴法質問票(BDHQ)より算出し、喫煙習慣については公衆衛生学講座で作成した生活習慣調査票より喫煙・禁煙・非喫煙よりあてはまるものを尋ねた。また、生活習慣アンケート調査に同意した男性のうち、同年の住民基本健診を受診した244名を対象に血清脂質と喫煙習慣および食習慣との関連について分析した。

【結果】喫煙者では非喫煙者に比べて20g/日以上アルコール摂取者の割合が多く、脂質エネルギー比率、ビタミン類や食物繊維、無機質の摂取量は少なかった。血清脂質との関連については、喫煙、アルコール摂取量、摂取脂質エネルギー比率のいずれも血清中性脂肪の上昇と関連していた。対象者をアルコール摂取量によって「飲まない」、「20g/日未満」、「20g/日以上」の3カテゴリーに分け、摂取脂質エネルギー比率で調整して喫煙の有無による血清中性脂肪との関連を検討したところ、どのカテゴリーにおいても、喫煙者の血清中性脂肪は非喫煙者に比べて高い値だった。

【考察】アルコール摂取量や脂質エネルギー比率にかかわらず、血清中性脂肪が喫煙者では非喫煙者に比べて高かったことより、喫煙は食事由来のアルコールや脂質とは独立して血清中性脂肪に関連している可能性が示された。したがって、喫煙者への保健指導として、アルコールや脂質、野菜や果物摂取量に対する指導とともに禁煙指導も必要であると考えられた。

平成 20 年 1 月 23 日

山形大学大学院医学系研究科長殿

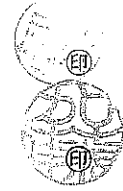
学 位 論 文 審 査 結 果 報 告 書

申請者氏名：矢口 友里

論文題目：地域住民の栄養調査による喫煙と血清脂質の関連性に関する研究

審査委員：主審査委員

深尾 彰



副審査委員

加藤 丈夫

副審査委員

久保田 功



審査終了日：平成 20 年 1 月 21 日

【 論 文 審 査 結 果 要 旨 】

高島町の 40 歳以上住民に対して実施した生活習慣に関する質問票調査、および妥当性が確認されている自記式食事歴調査のデータを用いて喫煙と栄養素摂取、および血清脂質との関連性を検討した論文である。5,446 名のデータを用いた喫煙と栄養素摂取との関連性の検討では、喫煙者は非喫煙者に比べアルコール摂取量が多く、ベータ・カロテン、トコフェノール等の抗酸化物質、食物繊維、無機質の摂取量が少ないことが示された。男性 244 名のデータを用いた喫煙と血清脂質との関連性の検討では、喫煙者は非喫煙者に比べて中性脂肪が高かったが、その傾向はアルコールや脂肪の摂取量で調整しても認められ、喫煙は中性脂肪を上昇させる独立した要因であることが示唆された。以上の結果から、生活習慣病対策としての禁煙教育の重要性を指摘している。

本研究は、21 世紀 COE 研究の一環として実施されたコホート研究のベースラインデータを解析したものであり、得られた研究成果は予防医学的に見て示唆に富むものであることから、本審査委員会では、学位(医科学博士)に十分値するものと判定した。